四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol 32

水は母なる心のふるさと

香川県　宇多津町長
谷川（たにかわ）　実（みのる）

海であれ、川であれ、小川のせせらぎであれ、水は私たちの心に母にも似た温かさと安らぎを与えてくれる。子どもの頃、つい50年程前川や小川は、春、夏、秋を通じて子どもの遊び場でした。学校から帰ると宿題もせず、鞄を放り投げて近所のガキ大将のもと、魚取りに呆けて風呂を焚くのを忘れ、親にひどく叱られたことが昨日のことのように懐かしく思い出される。今でこそ子どもの姿はない。50余年の間に私たちは、母なる清流を失ってしまったのである。人間は、全ての動植物と共生しているという基本認識のもと、官民あげて一日も早く清流を取り戻さなければなりません。

我が町としては、“美しい河川を”との思いから、住民の方々が年数回にわたり河川の清掃に取り組むとともに、昨年は延長1.5kmに渡って住民700余名が参加して水仙の球根1万5千株を植え、花咲く春を楽しみに待っています。この様な住民の河川への思いの一つひとつが積み重なり、年月をかけて川は綺麗になっていくと確信いたしております。

しかし、河口の町である我が町の悩みは、台風や大雨の度に発泡スチロールの容器、ビニール類等々が河床の葦等に絡まり惨憺たる風景になることであります。昔、祖母から寝物語に「賽の川原で幼児が現世における父母や兄弟の幸せを願いながら石を一つまたひとつと積み上げると、鬼が来てそれを崩していく・・・また、最初から積み始める・・・」。この様な話を聞いたことを思い出します。

中国の諺に「百年河　清を待つ・・・」、という言葉がありますが、現状の民度では無駄な努力かも判りませんが、人間の英知を信じて美しい河川づくりに向けて、地道な努力を一つひとつ積み重ねていこうではありませんか。

大東川　瀬戸大橋線（左）、JR予讃線（右）

大東川と新町橋